

日本財団 1st WORK! DIVERSITY フォーラム

(第1回ダイバーシティ就労支援フォーラム) 講演要旨

2019年5月15日、於日本財団本部2階大会議室

「働くことの意味」

清家篤 (日本私立学校振興・共済事業団理事長／慶應義塾学事顧問)

〔I〕働く意思

- (1) 働く目的→所得獲得、自己実現、社会参加
- (2) 補完・代替→補完(所得⇔評価)、代替(motivation crowding out)
- (3) 多様性→目的間優劣無し、どの目的も大切、目的内≠他比較=自己成長

〔II〕仕事能力

- (1) 内的要因→体力、認知的能力、非認知的能力
- (2) 外的要因→技術、市場、制度、規制
- (3) 有能程度→内的要因×外的要因、一時点多様性、異時点間変化
- (4) 多様性→働く意思×仕事能力、意思多様・能力多様、組み合わせ多数

〔III〕可能性を増やす

- (1) 良い社会→仕事能力の下で目的最大、個人選択、独立個人の間際
- (2) 働き方の多様性を→≠単一産業社会、多産業・多職種
- (3) 外的制約↓→外的要因多用化、技術↑市場↑、技術規制↓、市場規制↓
- (4) 内的制約↓→健康投資、教育投資、人間交際、≠相対比較=絶対成長

〔IV〕ワークとライフ

- (1) ワークライフバランス→≠代替的、ワークもライフ、外部不経済を防ぐ
- (2) 一人複役社会→職業人、家庭人、地域人、趣味人
- (3) 相互尊重→「迷惑かかる」？「コンビニエンス」？「しんがり」型手助け

〔V〕2040問題への対応

- (1) 2040年問題→高齢人口最大、人口急減、団塊ジュニア世代高齢者に
- (2) 支え手を増強→団塊ジュニア強化、様々な形で社会支える

〔VI〕個人の独立ということ

- (1) 多様性のもと→個人の独立、福澤(「独立の気概」「一身一国」)、絶対条件
- (2) 社会=人間交際→独立≠孤立、独立しているから対等交際
- (3) 独立条件→仕事、相互依存(社会、助け+助けられ)、公から私・共へ
- (4) 国に依存しない→政府役割→制約↓+安全網、相互協力、当プロジェクト